

地デザ 日誌

地デザのご近所インタビュー

やりたいことや興味のあることをきっかけに、暮らしを豊かにする企画をつくり実践していく「地域デザインの学校」。

第4期となる西区西都での講座が、いよいよスタートします！今回は、歴代最年少の意識高い高校生から、歴代最高齢(88歳!)の快活なおじいちゃんまで、幅広い年代の方々が参加予定です。講座で実際にお会いできるのが、今から楽しみです。

また講座に先立ち、地域で活動されている方々へのインタビューも進めてきました。自治会の会長、公民館の館長や主事、地域交流センターさいとび館長をはじめ、小学校の校長先生、地元のカフェ店主、教会の牧師、ピアノの先生、保育園の園長先生、民生委員の方、地元の不動産関係者、学生団体など。



など。いろんな方々のお話を聞いていくに連れて、まちの印象が変わっていくのは面白いですね。

こうしたインタビューは、お話を聞くに留まらず、つながりをつくる絶好のチャンスでもあります。インタビューをきっかけにつながりが生まれる。そんな地域に関わる入口もあっていいのではないのでしょうか。

講座内でも、受講生が地域で活動している人に話を聞きに行く「ご近所インタビュー」をします。これをきっかけにして、これまでも様々なつながりが生まれ、具体的な活動につながった例もあるのです！

山内泰(ドネルモ/代表理事)



冷泉荘不動産
Reizensou Real Estate



エンジョイ レトロビル!

テーマは「ホトメキ(おもてなし)リノベ」。

コーポ江戸屋敷で築後暮らしはいかが？

暦の上では秋となっていますが、まだまだ暑い日は続きそうですね。涼しい季節がやってくるのが待ち遠しい。でもでも!個人的な話になりますが、私は夏に開園する夜の動植物園が大好き。夜独特の動物たちの野生の雰囲気や、暗いからこそ感じられる植物の気配を楽しめるのが最大の魅力です!

さて、主に福岡を中心に活動している私たちにとって、数少ない福岡市郊外のプロジェクト「コーポ江戸屋敷」。久留米で菜園付きアパートをマネジメントしている半田兄弟との共同事業で、お2人にはデザインを担当していただいています。久留米の中心市街地から少し離れた場所にたつこのビルは、階段室型の3棟が同じ敷地に連なる団地スタイル。見上げると広がる青い空、周辺には畑や植木などの緑豊かな環境。筑後川花火大会も部屋から見えるというなんとも贅沢な住環境。現在4室がリノベーション済みで今後も徐々にリリース予定です!都市部とはまた違ったライフスタイルを提案していきますので、お楽しみに!

◎コーポ江戸屋敷

<http://www.space-r.net/rent/edoyashiki>

梶原あき(冷泉荘不動産スタッフ)



What is the Yoga ?

yogaで綺麗になれるの?ヨガのポーズは、その姿勢でいかにその場で安定させることができるかという事でもあるの。日常生活では行う事はない大きな足の開きや腕の動き。しかも呼吸を意識して動き続けることはない。そう、常に呼吸を感じ自分を内観していく。筋肉は大きく分けて遅筋と速筋がある。速筋は瞬発力に優れていて体内の糖をエネルギーとします。遅筋は持久力に優れていて主に脂肪をエネルギーとしています。これは筋肉を使う時に酸素を必要とするか必要としないかの違いでもあります。呼吸を続け、動きを続け自分を内観していく...あっ、これはマラソンをしている時と同じ感覚なのね。呼吸の音を聞き、無言で走る自分の内側を見ている...「きつい」とか、「止めたい」とか、「頑張る」とか、「助けて」とか、混乱する心の声を沢山聞きながら、今自分が強く思っている



ことが勝つ。そして、マラソン選手は皆脂肪を燃料として走っているの、痩せていますよね~よくあんな身体で走っているの?って感じですね。フルマラソンの競技は有酸素運動の究極。

yogaはそんな有酸素運動の一つともいえます。ちょっといい感覚で呼吸を感じ、筋肉を感じ今の自分の考えを統一したり見つめていく事で、新たな何かを見つたりと心を整理することができますよ。ヨガを行ってみませんか?マラソンに少し似た感覚を味わえます。今の自分のバランスを感じることもできます。身体は一つの生命体である以前に一つの建物。だから地盤を整備し土台を作る。重力に従って身体を支え、心をここに置くことをしないと崩れる。歪む。Yogaは動く瞑想とも言われています。痩せるとか太るとかあまり外装ばかりに気を取られず、心の平和を手に入れたいものですね。

高橋ひとよ

(ラウレア・ヨガ&ピラティススタジオ代表/美・Body salon ナプア代表)



サンダーレンズ Thunder Lens*

これまで気になってた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今月のサンダーレンズは、サンダーさんの足元に注目。謎の金ピス付き便所サンダルのご紹介です。某テレビ番組で紹介されていたレアな緑色サンダルをゲットして、穴の大きさにピッタリのピスを自分でリメイクしたこのサンダル。世界に一足のサンダーサンダルなのです。たかが便所サンダル、されど便所サンダル。本当に眼が離せません。

撮影: 雨宮康子

アトリエ音 日本画家の徒然叢

夏目漱石



毎日暑いですが、如何お過ごしでしょう。福岡の自宅では、毎年2階のベランダに葦藁を立てかけて、夏の風物行事にしています。台風が来ると横に寝かせたりと、9月になれば、そろそろ忙しくなってくるのでは、と思います。

先月は盆休み熊本へ帰省の折、実家からすぐ近くの夏目漱石旧居と、熊本洋学校・ジェーンズ邸に行って参りました。こちらには、子どもの頃からのお気に入りの散歩コースで、悲しい事にジェーンズ邸は3月の熊本大地震にて、粉々になっています。以前来たときはブルーシートでしたが、この日は大阪テントさんから寄付された上げ下げの出来るテントを取り付けてあって、晴れた日にはカビから守るため乾燥目的もあって少し上げ通気をしてありました。大変ありがたい事です。ジェーンズ邸が、修復元される事を待ち望んでいます。

お隣の夏目漱石旧居では、観光客の方も一組来られていて、ボランティアのおじ様が一生懸命説明されていました。壁面は少し剥落していて、こども修理が必要であろうと思われます。昔からですが無料で入れる事、今時なかなか無いと思います。漱石の熊本五校教諭時代に3番目に住んだこの家は、本人も気に入っていたそうで、玄関はいつでも横の部屋では、丸窓から西に傾きだした日差しが注ぎ、それは美しい影を畳へ落としていました。扇風機のみでしたが、木々から風が渡って涼しく蚊取り線香と、藤の寝椅子と、団扇と、朝顔、打ち水と、すだれと風鈴、蚊帳と浴衣そんなものを思い起こさせる家です。こんな日本家屋で夏を過ごすのも風情があって良いだろうと憧れます。水前寺成趣園のすぐ裏手ですの、観光で来られたら、是非。

水前寺成趣園では、古今伝授の間でお抹茶も頂けますし、古今伝授の間の向いにあるお爺ちゃんとお婆さんのおみやげ屋さんでは、昔ながらの機械で削るふわふわの小さめの水色の器に入ったかき氷もお勧めです。公園の池と庭を見ながら食す事が出来ます。名残の夏を楽しみましょう。

酒民党员でもある、まちづくり屋さんへ聞く!

まち in 酒話

昔話でお酒を



秋は行楽、スポーツ、食欲と楽しい事がいっぱいですが、読書の秋も良いものです。むかし、むかし、あるところに〜でお馴染みの昔話ですが、これは各地に伝わる伝説を分かりやすいように組み立て直した物がほとんどです。有名な「鶴の恩返し」というお話がありますが、これは鹿児島薩摩郡に伝わる

「鶴女房」というお話が元になっています(所説有)。この「鶴女房」では、男が去っていた鶴を探して日本中を旅します。これだけで今長編小説が書けそうです。鹿児島には出水に越冬の鶴が10月~3月にやってきます。この越冬の鶴がモデルになったのかもしれない。秋の夜長は読書と晩酌で過ごしてはいかがでしょう。

